

# バランスの取れた研究環境を築くために

## ～年会における発表者等の属性調査～

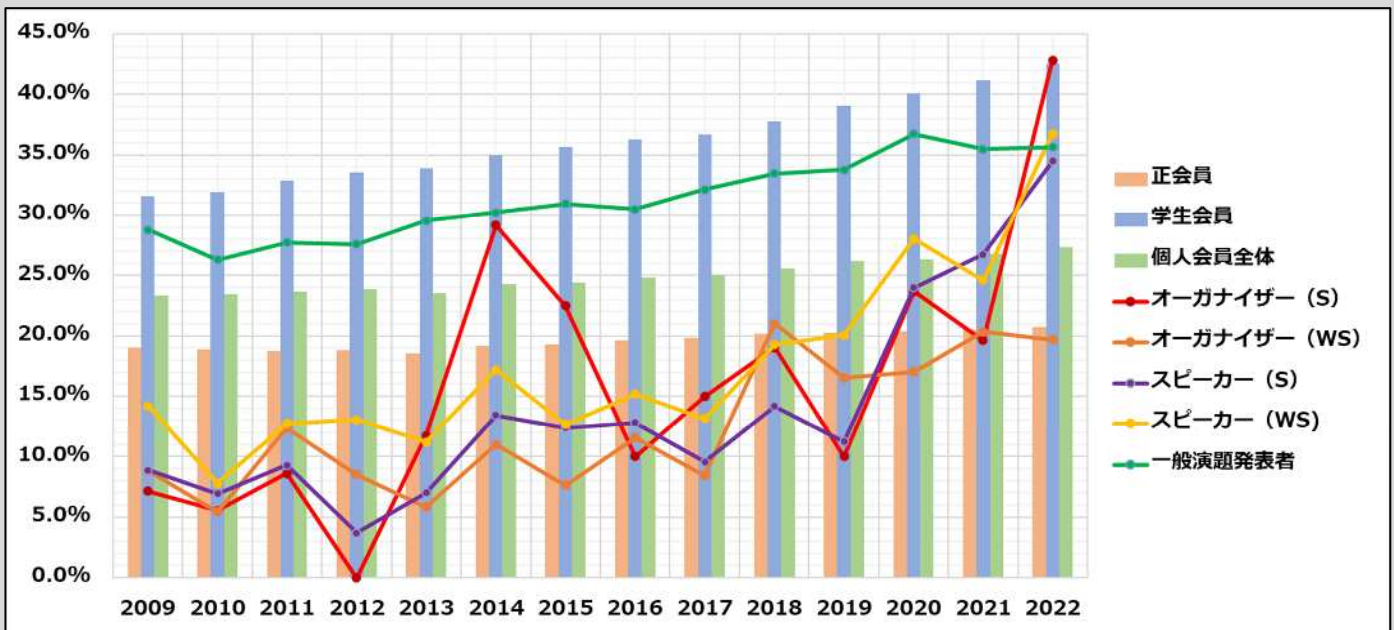


### 属性調査とは？

研究発表の場においては、性差にかかわらず研究者としてのビジビリティ（可視性）を高めることでその後の研究機会・キャリア獲得などに結び付けることが期待される。シンポジウム・ワークショップのオーガナイザーやスピーカーの多くは正会員であることから、その男女比率が学会会員における男女比率との近似値になることが望ましい。

「シンポジウム・ワークショップなどのオーガナイザー・口頭発表者における女性比率は、学会員全体における女性比率と比べて低いのではないだろうか」という疑問をもとに、年会発表者等が属する性、年齢、職階、発表カテゴリー等（属性）について、2009年度から継続調査を行っている。

## 日本分子生物学会 年会における属性調査〈女性比率の推移〉



### 発表者が決まるプロセスの違い

#### ●シンポジウム (S)

オーガナイザー：年会側が検討・依頼（他薦）  
スピーカー：オーガナイザーが検討・依頼（他薦）

#### ●ワークショップ (WS)

オーガナイザー：応募者（自薦）の中から選抜される  
スピーカー：オーガナイザーが検討・依頼（他薦）

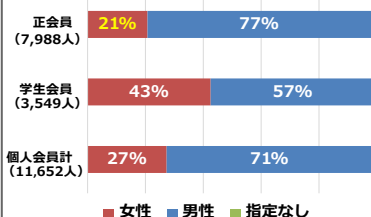
#### ●一般演題発表者

自発的な申し込み（自薦）

### 日本分子生物学会の男女比率

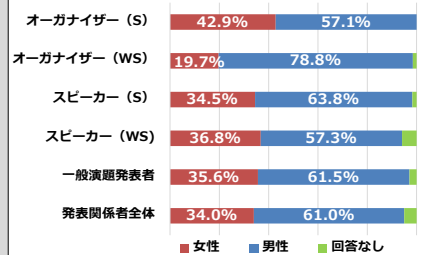
(2022年9月30日現在)

0% 20% 40% 60% 80% 100%



### 各カテゴリにおける女性比率の比較 (2022年)

0% 20% 40% 60% 80% 100%



第45回年会 (MBSJ2022) 属性調査においては3,427名が調査対象となった (のべ人数)。

年会の事前参加登録・演題登録システム使用に際して最初に行う新規アカウント作成のための画面 (日本語版・英語版) に、性別、年齢、所属、職階 (身分) についてのアンケート設問を設置 (回答は任意)。ここでは演題登録を行っている、あるいはオーガナイザーリストに含まれている登録者の回答データのみを抽出し集計した。一部のオーガナイザー等に関する調査では公開情報や本学会会員データ (学会個人情報保護方針に依拠) なども併用した。なお本年会において本学会会員と同じ条件で参加・発表する日本生物物理学会会員も講演セッションのオーガナイザー・スピーカー、一般演題の発表者として含まれている。またシンポジウム・ワークショップのスピーカーには非会員の演者を含むと共に、本年会では非会員の一般演題投稿も認めており、その発表者も含まれている。

属性調査開始以来、上記の疑問については「その通りであった」という結果が続いていたが、昨年に続き2022年の調査でもすべてのカテゴリにおいてほぼ女性正会員の比率と同等かそれ以上の女性比率となった。

2022年会ではワークショップの企画公募で募集要項に「指定演者のうち少なくとも30%程度は女性講演者とするを応募条件とする」ことが記載された。ワークショップスピーカーの女性比率は過去最高となった。今回の募集を契機に、これまでスピーカー経験の少なかった女性研究者の仕事に着目してセッション企画者が後押しするといった効果が期待できる一方、特定の女性研究者に講演依頼が重なってしまうという課題も見られた。

